

■八田興一 土木技術官僚。台湾を愛し、東洋一の灌漑ダムを実現、台湾人から敬慕された。大戦中、船が撃沈され没した。

はったよいち

帝国大学始・1886＝ 石川県河北郡今町村(金沢市今町)で、代々豪商八田四郎兵衛の五男に生まれる。母はサト。

視力の衰えた父に代わって切り盛りする15上の長兄のもと、ガキ大将として遊びまわり、

大本教・・・1892＝ 6歳：花園村立花園尋常小学校に入学。
近所の人たち集めて自宅で開かれる真宗の講やお座の影響も受け、

日清戦争始・1894＝ 8歳：

日清戦争終・1895＝ 9歳：

白馬会・・・1896＝10歳：卒業して、森本尋常高等小学校に進み、

Bushidou・・・1899＝13歳：まだ中学に進む者の少ないなか、石川県立第一中学校に入学。

比阿ノ国産化・1900＝14歳：父が死去。

次兄は母方へ養子に出、良き理解者たる三兄智證は医学の道、四兄は兵役となり、家族は郡会議員となった長兄夫婦と母だけという状況のなか、

日露戦争始・1904＝18歳：金沢の第四高等学校大学予科二部工科に入学。直後に、旅順の戦で四兄友雄が死去。
同級生に河合良成・正力松太郎らがあり、教師西田幾多郎から強い刺激を得、

日露戦争終・1905＝19歳：

韓国反日暴動1907＝21歳：卒業し、東京帝大工科大学土木科に入学。

アヲヲ創刊・1908＝22歳：河合・正力らとともに、前田家が建設したばかりの(明倫学館)に寄宿、

広井勇教授に火をつけられて、大志を抱き、

韓国併合・・・1910＝24歳：卒業すると、台湾総督府土木部技手となり、工務課に勤務。

大逆事件判決1911＝25歳：官制改正で、台湾総督府技手土木局土木課勤務となる。

明治天皇没・1912＝26歳：台湾島内を調査旅行し、高雄改造計画書を提出、発想の雄大さが知られ始める。

大正政変・・・1913＝27歳：

第一次大戦始1914＝28歳：台湾総督府技師に昇進し、浜野弥四郎のもとで衛生工事に従事して、その人柄にも感化される。

21ヶ条要求・1915＝29歳：台南市上水道工事に従事。

民本主義・・・1916＝30歳：

ロシア革命・1917＝31歳：

東南アジアの用水施設調査旅行から戻ると、発電・灌漑工事を担当となり、桃園神せん(土偏に川)の基本計画を立て、着工にこぎつけ、以後その円滑な工事進捗を通じて、総督府で高く評価されるようになる。

本格政党内閣1918＝32歳：

ベノ条約・1919＝33歳：

大暴落・・・1920＝34歳：

原敬首相暗殺1921＝35歳：

水平社結成・1922＝36歳：

調査活動を実施し、灌漑事業計画を立て、総督府土木局設計係兼工事係後、工事設計案・予算案完成。長女が誕生。官田溪せん組合が認定され、着工に伴い、総督府技師から組合技師となる。

嘉義市に組合本部が完成し、転居。改称された嘉南大?組合監督課長兼工事課長となる。二女が誕生。同僚技師と共に渡米してダムを視察し、自らの案に完全な自信を抱くとともに、各種の新式大型土木機械を多数購入して、帰国。従業員らは始めは戸惑うも、のち本場を凌ぐ使いこなし。鳥山頭出張所長となり転居。鳥山嶺燧道起工するが、ガス爆発事故が発生し、50余名死傷、その供養に心血注ぐも、

姉が死去。本土の大震災復興に予算とられ、工事一時中断し、組合職員の半数が解雇となる。三女が誕生。工事再開し、排水用隧道竣工。導水路・給水路も完成し、一部灌漑開始。

四女が誕生。監査に訪したアメリカの大家ジャスチンと論争し自説曲げず。桃園神せん工事完了。長兄誠一に続き、母が死去して、金沢市に一時帰郷。鳥山頭堰堤の本工事開始。

二男が誕生。最も親しかった三兄智證も死去。次兄又五郎も死去し、ついに両親兄弟全てを失う。鳥山嶺燧道貫通式実施。

五女が誕生。鳥山嶺燧道竣工に続いて、ついに鳥山頭堰堤が竣工。組合技師を解職し組合技術顧問となる。盛大な竣工式実施。総督府内務局土木課水利係長。工事の絆残そうと組織の交友会会長になり殉工碑建立。台北市に転居。台湾水利協会設立。

六女が誕生。組合本部が台南市に移転。交友会が発注した興一の銅像除幕式。台北市の官舎に転居。

満州事変・・・1931＝45歳：

五一五事件・1932＝46歳：

国際連盟脱退1933＝47歳：

帝人疑獄事件1934＝48歳：

芥川直木賞始1935＝49歳：

二二六事件・1936＝50歳：

日中戦争始・1937＝51歳：

健保+総動員1938＝52歳：

第二次大戦始1939＝53歳：

大政翼賛会・1940＝54歳：

日米開戦・・・1941＝55歳：

・・・1942＝56歳：

全島土地改良計画に取り組み、武甲溪電源開発を計画。早くも、嘉南大せんの経済的効果が顕著になり、勲六等瑞宝章。大甲溪の実地調査を実施。

中華民国福建省主席陳儀の依頼で、妻を同伴し訪中、灌漑施設の調査を実施。「福建省管見」と題する論文を「台湾の水利」に発表。

総督府専売局技師を兼任。「土木測量技術員養成所」設立に奔走し、顧問となる。殖産局農務課技師兼任。勲五等瑞宝章。

勲任官技師となり、勲四等瑞宝章。台湾都市中央計画委員会幹事。台湾国立公園委員会幹事。農林調査団長として、海南島調査。

高等官に至ったが、日本・朝鮮・満州・中華民国の主なダムを視察後、陸軍省の南方開発派遣要員としてフィリピン派遣となり、大洋丸に乗船し宇品港出航したが、アメリカ潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没、東シナ海で没した。

敗戦直後、残された妻外代樹は鳥山頭ダムの放水路に投身自殺した。